

「委員からの意見」要旨一覧

第5回流域委員会
資料2-2

分類1	分類2	分類3	委員名	主 な 内 容	備考
01.意見	01.運営	01.流域委員会	奥西委員	意見書の徴収について 多岐にわたる調査等に基づいて自分の意見を展開したい場合があると思うので、意見のすべてを期限内に書くことが難しい場合がある。一定の手続きを踏んで組織的に意見を集約した方が良い。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	奥西委員	委員会審議フローについて 第5回流域委員会では、流域委員(田村・中川両委員)から出された審議フロー案をあくまでも正式提案として取り扱い、その他の意見(河川管理者案)はあくまでも参考意見として取り扱われるべき。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	奥西委員	流域委員会事務局メンバーについて 事務局メンバーはパーマネントのメンバーとして発表を要求する。必要なことは、河川管理者サイドの発言を事務局メンバーの発言として聞くことを防ぐことである。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	奥西委員	総合治水について 国土問題研究会の「武庫川ダム計画の問題と総合治水対策調査」報告書の説明を行いたい。また、別添でまとめている「武庫川流域委員会で治水問題について検討すべき事項」を併せて資料として使用し、委員からの意見に耳を傾けたい。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	岡田委員	河川管理者から説明のあった「武庫川の現状と課題」は表面的・総括的であり、現状認識についても重要なポイントのもっと具体的な説明や、将来の取り組みについて河川管理者の考えを主体的に説明するべきであった。今後、これに伴う流域委員会との質疑応答や議論の時間も充分に取らなければならない。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	岡田委員	治水の現状及び将来への展望をもっと率直に説明すべき。利水についてももっと踏み込んだ分析が必要である。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	池添委員	委員会は、あまりにも公開や透明性にこだわりすぎていて、本来の川のあり方の議論になかなか入っていけないのではないかと、いつ、異常湧水や水害が起こるか分からない。この委員会の目的を早期に達成するため努力したい。	書面
01.意見	01.運営	01.流域委員会	酒井委員	水辺空間の保全に意を尽くさねばならない。そのため、川をいかしたまちづくりを成功させている先進事例の見学会を提案する。	書面
01.意見	01.運営	02.運営委員会	山仲委員	運営委員会の目的は、日程(全体スケジュール)作成と議案の決定である。	書面
01.意見	01.運営	02.運営委員会	山仲委員	運営委員会での議論は控え、議題に対しての議論は本委員会で行うことであり、これは反省点である。	書面
01.意見	01.運営	02.運営委員会	奥西委員	運営委員会に他の流域委員が出席することについて 運営委員以外の流域委員が少なくとも一人、運営委員会に出席されることが望ましい。	書面
01.意見	01.運営	03.その他	草薙委員	第4回流域委員会での2名の委員からの調査検討要領は、重要な要点が挙げられているが、すべてを取り上げ検討することは、到底不可能である。故に、討議のため優先的に実施する項目をピックアップし、作業を進めることが必要である。	書面
01.意見	02.流域	01.森林	加藤委員	砂防指定地とほぼ同様の目的である、森林法による「保安林」の情報を掲載すべきである。	書面
01.意見	02.流域	01.森林	加藤委員	土砂流出防備などを目的とした保安林と他の森林を併せて適正な森林管理を行うことは、コストが安価でしかも下流域の生態系に及ぼす影響も大きいことから、今後の検討課題として取り組んでいただきたい。	書面
01.意見	02.流域	01.森林	佐々木委員	源流及び上流域 樹林帯である緑の活用や樹林、緑地を整備し、植生等をコントロールすることによるストロー効果を期待するべき。	書面
01.意見	02.流域	02.農地(ため池含む)	佐々木委員	源流及び上流域、農地開墾地域及び三田周辺開発地域 農地と遊水地・調整池・ため池の関係を整理し直してみる余地がある。	書面
01.意見	02.流域	02.農地(ため池含む)	佐々木委員	都市河川域 洪水調節機能としてのかつて下流域に見られたため池を見直すべき。	書面

「委員からの意見」要旨一覧

分類1	分類2	分類3	委員名	主 な 内 容	備考
01.意見	02.流域	03.都市	佐々木委員	農地開墾地域及び三田周辺開発地域 開発地域における浸透・保水対策の調査を行うべき。	書面
01.意見	02.流域	03.都市	佐々木委員	都市河川域 流域の保水を考えるべき。(透水性舗装・浸透樹の整備等)	書面
01.意見	02.流域	03.都市	田村委員	私が提案しているフローの中の「C-1地域条件調査」も実施されたい。	書面
01.意見	02.流域	03.都市	田村委員	法規制状況 武庫川に「都市計画緑地」が指定されていることを忘れないでください。	書面
01.意見	02.流域	04.その他	伊藤委員	6全総では流域の定義は、集水域・洪水域・利水域が入る。流域の定義を明確 にしておく必要がある。	委員会
01.意見	02.流域	04.その他	田村委員	地域住民が愛し、上手に武庫川と付き合う仕組みづくりがベースにあって河川 整備計画が生きて考える。	書面
01.意見	02.流域	04.その他	田村委員	河川のゾーニング 周辺の土地利用、環境状況とリンクさせたゾーニングが必要である。 これらのゾーンの特徴を十分把握したうえで、ゾーンにあった適切な「河川整 備計画」を策定すべきである。	書面
01.意見	02.流域	04.その他	中川委員	検討対象流域 本委員会での検討対象を基準点甲武橋以降下流の河口まで含めた範囲を検 討流域として捉え検討するべきである。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	松本(俊) 委員	リバーサイド住宅地では、現在のコンクリート擁壁の設置程度ではなく、根本的 な治水対策をとるべきである。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	土谷委員	H17から行われる予定の宝塚～生瀬間の河川改修工事については、景観を守る ためにも、川の生き物をこれ以上減らさないためにも、武庫川上流の治水対策 検討委員会のようなものをつくって、再検討する必要があると思う。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	佐々木委員	源流及び上流域、農地開墾地域及び三田周辺開発地域 ボトルネック橋梁、放水路等の調査を行うべき。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	佐々木委員	農地開墾地域及び三田周辺開発地域 ショートカットによる河川整備により失われた武庫川らしさ・風情を再生するべ き。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	佐々木委員	農地開墾地域及び三田周辺開発地域 スーパー堤防の考え方を応用したり、桜づつみモデル事業・ふるさとの河川整 備事業等の引用も考えられる。	書面
01.意見	03.治水	01.河道	佐々木委員	都市河川域 堤防のあり方を考え直すべき。(スーパー堤防・桜づつみモデル事業)	書面
01.意見	03.治水	01.河道	佐々木委員	リバーサイド地域 最優先の課題として、まず最大限の安全率で早急に保護することができるよ うな策を前提に全体案を議論すべきである。	書面
01.意見	03.治水	02.ダム	畑委員	ダムを連携させる貯水池運用を検討しているのか。	委員会
01.意見	03.治水	02.ダム	畑委員	ダムの連携運用が可能なのか。概略検討を願いたい。	委員会
01.意見	03.治水	02.ダム	畑委員	千苅ダム、青野ダムを嵩上げすることで、容量をアップさせるということは議論し てできるのか。概略検討を願いたい。	委員会

「委員からの意見」要旨一覧

分類1	分類2	分類3	委員名	主 な 内 容	備考
01.意見	03.治水	02.ダム	松本(俊)委員	当委員会での最大の論点は、武庫川ダム建設の有無と考える。県にはこのことについて、十分な議論ができるよう情報提供を求めたい。	書面
01.意見	03.治水	02.ダム	佐々木委員	ダムサイト周辺 武庫川ならでの自然を何とか最大限に生かせる手法を検討すべきではないかと実感した。	書面
01.意見	03.治水	02.ダム	佐々木委員	ダムサイト周辺 支流の水は支流で治める流域対策、河川改修によってダムがない場合の安全率確保を検討するべき。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	草薙委員	武庫川の災害とその内容把握を目的とする研修会の開催を要望。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	松本(俊)委員	平成12年9月の東海豪雨では、2日間で500mm以上という記録的な豪雨であった。仮にこの雨が武庫川流域で降った場合、田畑や多くの家屋が浸水被害にあっては想像に難くない。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	池添委員	現在の土地利用の中で、過去の水害が起こればどのような結果になるのか、どのような降雨で、浸水するのか、また被害がでるのか、早急に検討すべきである。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	佐々木委員	源流及び上流域、農地開墾地域及び三田周辺開発地域 水防関連の調査をし、水防図と独自の水防体制・手法等を重ね合わせることで災害に対する河川の性格を知る必要がある。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	中川委員	過去の武庫川流域で発生した災害の直接的な原因を明確にする必要がある。	書面
01.意見	03.治水	03.災害	中川委員	過去の武庫川流域で発生した災害の状況説明を地理情報を伴って正しく理解する必要がある。	書面
01.意見	03.治水	04.土砂	奥西委員	流砂とそのコントロールについて 流砂状況、ダムの堆砂状況等の基礎資料を求める必要がある。 武庫川ダムの建設の可否を議論する場合は、信頼度の高い堆砂予測を河川管理者に要求する必要がある。	書面
01.意見	03.治水	05.管理	松本(俊)委員	現堤防が未曾有の大雨でも破堤することがないよう強化、管理に努めていただきたい。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	松本(俊)委員	近年は、上流部で降った雨が短時間で下流に流下していると実感する。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	加藤委員	いつ想定以上の洪水がくるかわからない。水があふれてきたときにどうするのかの議論を充分に行う必要がある。このような状況下において従来の川とダムで対応する「河道主義」ではもはや立ち行かないと考える。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	加藤委員	第4回流域委員会で河川管理者から「武庫川の現状と課題」が説明されたが、流域全体を想定した治水対策は希薄に感じられた。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	加藤委員	土地利用状況によると、森林、田畑が流域に占める割合が約80%となっており、降水量は大半を占めているものと考えられることから、これらと連結した治水対策を検討する必要がある。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	佐々木委員	支流 支流毎に徹底した流量調節案を練るべき。(例えば、遊水地、ため池他)	書面
01.意見	03.治水	06.その他	佐々木委員	様々な重点整備事業を活用する。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	奥西委員	武庫川流域委員会での討議においては、特定都市河川浸水被害対策法の趣旨に沿って治水対策を審議することが必須であると考えられる。	書面

「委員からの意見」要旨一覧

分類1	分類2	分類3	委員名	主な内容	備考
01.意見	03.治水	06.その他	奥西委員	水防法に従って活動すべき自治体、下水道管理者、都市計画決定権者に「現状と課題」について報告を求めることが必要ではないかと考えられる。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	奥西委員	武庫川流域委員会での審議でも、防災基本計画(2002年4月改訂)のポイントを外すことはできないと考える。	書面
01.意見	03.治水	06.その他	奥西委員	河川整備基本方針の中で治水方針を策定する際に、洪水時の被害想定を行うことは不可欠であり、そのために水防法(2001年6月改訂)の規定が参考になると思われる。	書面
01.意見	04.利水	02.水循環・水収支	村岡委員	「健全な水循環」の概念の分かり易い説明が必要	書面
01.意見	04.利水	02.水循環・水収支	村岡委員	「健全な水循環」と河川整備基本計画との関係の整理が必要	書面
01.意見	04.利水	02.水循環・水収支	村岡委員	上流、中流、下流の各流域ごとの水収支の整理が必要(水資源涵養域の保全、市街化に伴う水収支の特徴検討、地下水の保全検討等に必要)	書面
01.意見	04.利水	02.水循環・水収支	村岡委員	上水道の水源及び配水システムと下水道の処理・配水システムの位置的、量的特性の整理が必要(人為的な水の動きの把握に必要)	書面
01.意見	04.利水	03.その他	奥西委員	水利用について 水利用についても、専門家として、地域活動家として積極的に取り組んでいる委員から方法論的なガイドラインが示され、それに沿った資料収集と不足する資料を補うための調査が必要である。	書面
01.意見	04.利水	03.その他	松本(俊)委員	渇水の平成6年は、青野ダム、千刈ダムにより危機を脱した。既存のダムについては、管理者が異なり難しい面もあるだろうが、治水及び利水について、総合調整する方策を検討願いたい。	書面
01.意見	04.利水	03.その他	松本(俊)委員	「適切な河川維持流量の確保」のために、流域全体の土地利用規制や山林の育成に取り組むべきである。	書面
01.意見	05.環境	01.生態系	浅見委員	自然環境調査の報告書の詳細データを専門家として見たい。	委員会
01.意見	05.環境	01.生態系	岡田委員	潮止堰は原則的に転倒運転方式に変更し、試験操業によりその影響を調査すべき。	書面
01.意見	05.環境	01.生態系	岡田委員	篠山市当野地区では、H8の土砂流入の影響でオグラコウホネの生息に支障があると思う。土砂災害復旧がほとんど行われず、放置されているのが最大の原因である。再度実地調査を行い検討すべき。	書面
01.意見	05.環境	03.下水道	村岡委員	水質改善と下水道の普及の説明ができる資料の整理が必要	書面
01.意見	05.環境	03.下水道	村岡委員	下流域の下水道の普及と処理水放流点の位置、市街化における流出率の増大による低水流量の減少が見られる場合の裏付け資料の整理	書面
01.意見	05.環境	03.下水道	松本(俊)委員	水質の向上については、下水道整備により一切の汚水を武庫川に流入させないことである。県の指導性を求めたい。	書面
01.意見	05.環境	05.その他	奥西委員	環境について 環境問題に詳しい流域委員会を中心に、資料収集のポリシーがまず確立される必要があるように思える。	書面
01.意見	06.その他		酒井委員	川の持つ機能、人の暮らしと川の関係の説明が欠落していた。	委員会

「委員からの意見」要旨一覧

分類1	分類2	分類3	委員名	主 な 内 容	備考
01.意見	06.その他		奥西委員	県の管轄ではない部分について、流域各市の担当者から現状と課題の説明を行って下さい。	書面
01.意見	06.その他		加藤委員	上下流の市民が水にかかわる市民として、相互理解を深めるために交流を図ることが重要である。	書面
01.意見	06.その他		田村委員	治水、利水、環境の3つの側面を中心に調査分析するだけでいいのか、再度検討を要する。	書面
01.意見	06.その他		田村委員	調査範囲は、武庫川を生活圏域とする両岸500mから1.0kmの区域は、河口まで含めて調査対象とすべき。	書面
01.意見	06.その他		中川委員	それぞれの地域での情報を参照し、正しく現状把握、原因分析、課題認識を行う必要がある。具体的な方法論については第4回流域委員会でご提案申し上げた通りである。	書面